

生田緑地オリジナルフレーム切手 解説書



《メタセコイアの林》生田緑地は多摩丘陵の自然を残すかけがえのない緑の拠点として市民に親しまれています。メタセコイアの林は、春の新緑、秋の紅葉など、季節によって様々な表情を見せる生田緑地を代表する風景のひとつです。



《枡形山広場》生田緑地の中で一番標高の高い場所に位置する広場で、桜の名所のひとつとして 親しまれています。多目的舞台を併設した展望台からは、多摩丘陵や多摩川、丹沢山地や富士山 などを眺望することができます。



《東ロビジターセンター》緑地内の各施設の情報や季節のみどころを紹介する総合案内所です。 スタッフ手作りの展示などもあり、2階の多目的スペースでは、木の香りに包まれながらくつろ ぐことができます。



《ばら苑》(春・秋の年2回一般開放)周囲を多摩丘陵の雑木林に囲まれ、春は約530種4700株、 秋は約440種4000株のバラが咲き誇ります。多くの市民ボランティアと協力してバラの育成と 施設内の管理を行っています。



《しょうぶ園》6月上旬には、約2800株のハナショウブが一面に咲き誇ります。



《とんもり谷戸》飛森と書いて「とんもり」と読み、古くから地元で呼ばれている名称です。市民による里山の管理や自然とふれあうイベントなどが行われています。



《ホタルの里》湧水の流れる水辺を有する谷戸には、多摩丘陵在来の様々な生物が生息しています。6月には市民と市の協働により「ホタルの国」が開国し、昔から生田緑地に棲むゲンジボタルを鑑賞することができます。



《日本民家園》急速に消滅しつつある古民家を永く将来に残すことを目的とした古民家の野外博物館です。東日本の代表的な民家をはじめ、水車小屋や船頭小屋など25件の文化財建造物を見ることができます。



《岡本太郎美術館》川崎生まれの芸術家・岡本太郎の芸術、およびその両親である漫画家・一平、 小説家・かの子の芸術を顕彰する美術館です。美術の枠を超えて活動した精神を紹介します。



《かわさき笛と緑の科学館》川崎の自然や天文、科学に関する展示や体験活動をおこなっている自然科学の博物館です。館内には世界最高水準の星空を再現するプラネタリウム「メガスターⅢフュージョン」があり、職員の生解説により投影しています。



《藤子・F・不二雄ミュージアム》長年川崎市多摩区に住み、こどもたちのために数多くのまんがを描き続けた、藤子・F・不二雄氏の作品世界やメッセージを、原画等の展示を通じて幅広い世代に伝えていく文化施設です。



生田緑地

生田緑地を題材とした郵便局「風景印」の作成について

多摩区内郵便局12局のうち9局で、生田緑地内の施設や風景を題材とした風景印が完成し、10月1日(火)にリニューアルされます。郵便局は、この度の風景印リニューアルに際して、多摩区の観光資源である生田緑地を題材に、「生田緑地マネジメント会議」から日本民家園やばら苑などの写真をデザインの素材として提供を受け、9局全て違うデザインで作成しました。風景印は、正式名称を「風景入通信日付印(ふうけいいりつうしんひづけいん)」といい、郵便局で使用される消印のひとつで、各郵便局の地元の名所や史跡、天然記念物等が描かれた日付入りスタンプです。消印なので、50円以上の切手を貼った台紙や郵便はがきを郵便局窓口に持っていくと押印してもらえます。

今回リニューアルする生田緑地を題材とした風景印



※「生田緑地マネジメント会議」:生田緑地にかかわる市民団体や地域団体、行政など、多様な主体が相互に連携・調整しながら運営に参加し、生田緑地の価値と魅力の向上を目指し取組を行っています。